

2022年11月4日～5日

長野県北部震災被災地(栄村)における 文化財保全活動(第82回)報告

[2022年12月11日版]



地域史料保全有志の会

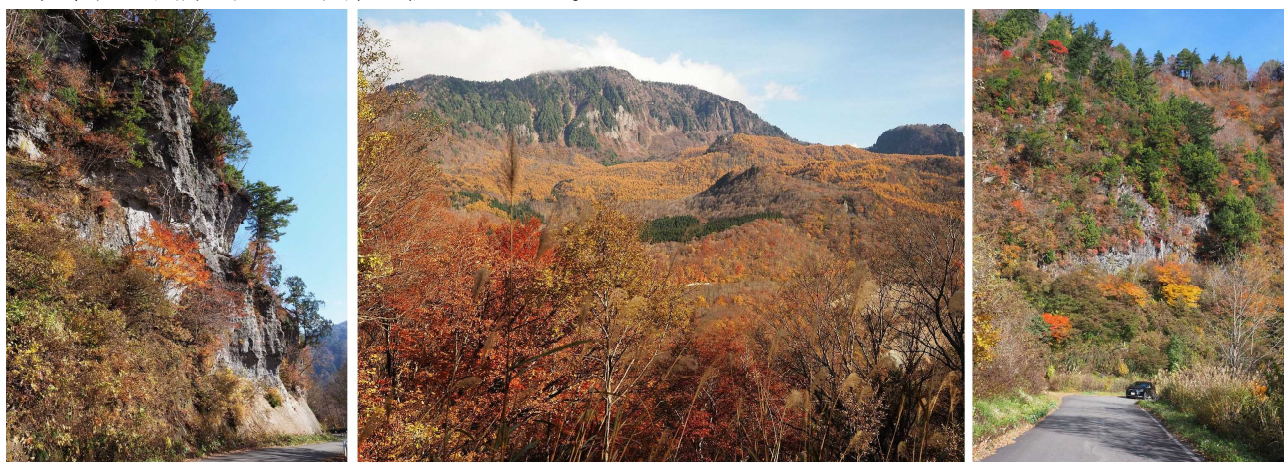
==== 目 次 ====

はじめに	2
1. 第82回活動の基本データ	2
■日程		
■参加者		
■活動内容		
2. 文献班の活動	2
■廣瀬博明家文書の移し替え		
■廣瀬博明家文書の目録採り		
■関口勉家文書の確認		
■教育長および教委事務局による文化財保全活動の聞き取り		
3. 会計報告	5

はじめに

新型コロナウイルス COVID-19が蔓延して3年目の今年も、広く声がけをして行う活動は自粛せざるを得ず、ごく限られた人数での内輪での活動という形をとることになった。今回は2名で、こらっせに保管されている廣瀬博明家文書の一部を専用保管箱に入れ替える作業と目録取りの続きを行った。

作業の前日には、志賀高原から秋山郷へ抜けるルートを通って栄村入りした。このルートは冬季閉鎖期間に入るため、この日が年内の通行可能な最終日であった。以前であればすでに志賀高原から切明にかけての紅葉は終わっている時期であったが、地球温暖化の影響か、今年はまだ紅葉が残っており、栄村の各所も見事な紅葉に彩られていた。



秋山の紅葉

1. 第82回活動の基本データ

■日 程：2022年11月4日(金)～5日(土)の2日間

■参加者：白水智・高野宏峰 【村から】廣瀬幸利 【差し入れ・支援等】吉楽旅館・樋口正幸

■活動内容：今回は文献班のみの活動で、古文書目録作成再開に向けての準備と教育委員会との打ち合わせを行った。

[11月3日(木)]

【文献班】栄村入り。

※吉楽旅館泊

[11月4日(金)]

【文献班】(午前～午後)関口勉家文書(柳在家)の確認、廣瀬博明家文書の目録作成および保管史料の整理。

(午後)教育長および教委事務局による文化財保全活動に関する聞き取りを受ける

※小滝地区交流施設「となり」泊。

[11月5日(土)]

【文献班】廣瀬博明家文書の整理。

2. 文献班の活動

■廣瀬博明家文書の移し替え

今回、村教育委員会から村誌編纂時に収集した古文書類をこらっせに移動したいとの相談を受け、

棚を空けるべく、2011年の文化財保全時あるいはこらっせへの搬入時から未整理のままになっていた一部の古文書を整理した。古文書整理が進行すればいずれやらなければならない仕事であったので、この機会を捉えて作業を行ったものである。

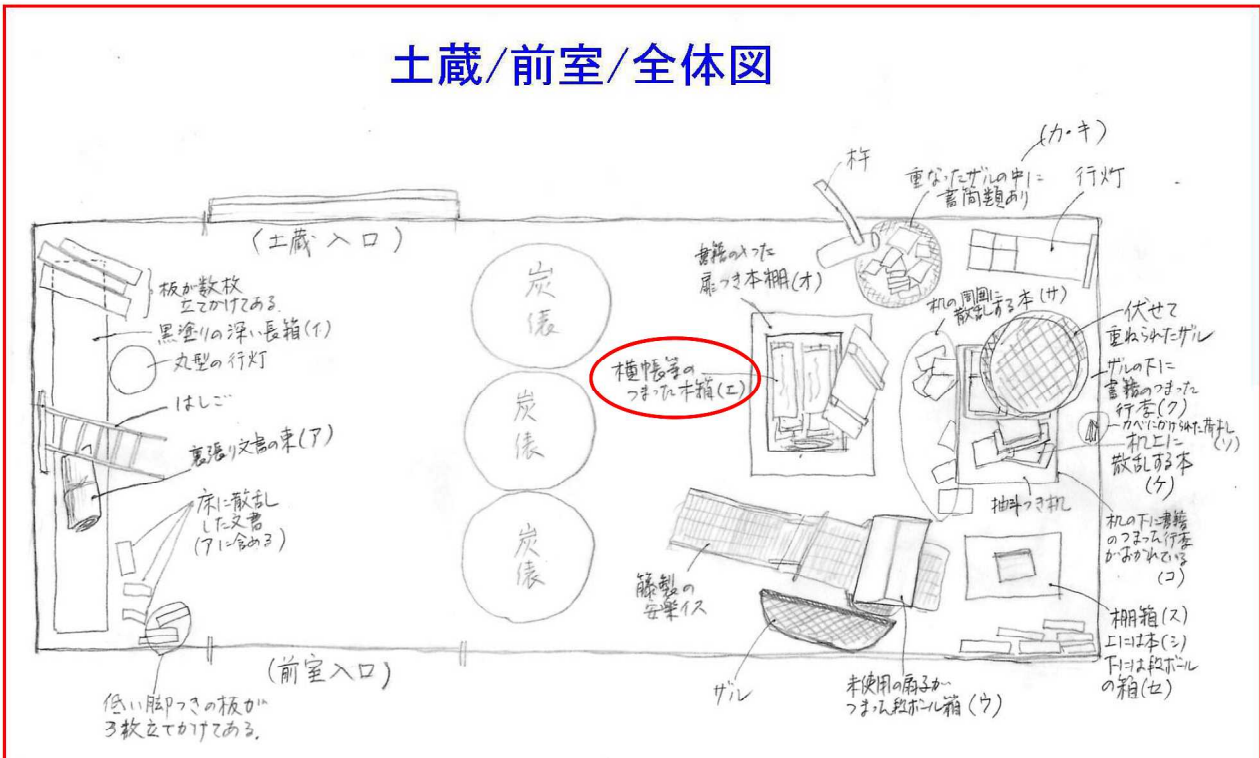
具体的には、古い容器から古文書保管専用箱「もんじょ箱」への移し替えを行い、必要に応じて現状記録を取り、また写真を撮った。これによって棚のスペースを2区画分空けることができた。

作業を行ったのは以下の箱の分である。

■こらっせ2階古文書収蔵室保管史料のうち、棚の最上段に置かれ、以下の「」のような記載のあった段ボール箱

- 「廣瀬①」（廣瀬家土蔵2階英字紙一括）→もんじょ箱1箱へ移動
- 「廣瀬②」（廣瀬家土蔵2階コ）（整理済）→もんじょ箱1箱へ移動
- 「廣瀬③」（廣瀬家土蔵1階あ-キ）→もんじょ箱2箱へ移動
- 「廣瀬④」（廣瀬家土蔵1階あ-キ）→もんじょ箱2箱へ移動
- 「廣瀬⑤」（土蔵前室エ=近世帳簿）→もんじょ箱2箱へ移動

このうち、「廣瀬⑤」と箱書きされていた段ボールには、底の破損した木箱がまるごとビニール袋に包まれて入れられていた。元の所在は「土蔵前室エ」と判明しており、震災前の2004年の調査記録では、廣瀬家土蔵前室に入って右手側に雑然と置かれていた容器であった。震災後に確認した際には、土蔵本体側の分厚い土壁が崩れかかり、その下敷きになっていたものである。箱の破損はその時であった可能性が高い。そして、木箱の中には土壁の細かい残骸などが散らばって埃まみれになっていた。震災後のレスキューに際して、箱の底が破損していたため、まるごとビニール袋に入れて救出したと考えられる。それがそのままダンボール箱に入れられ、保管されてきたのであった。



2004年の調査時に描いた現状記録(廣瀬家土蔵前室全体)。中央右寄りに「エ」の容器があった

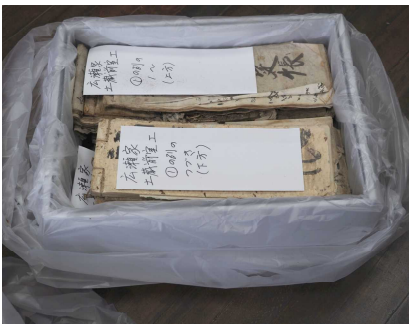


2004年調査時の容器工(左)は、震災後左側から土壁が崩れ下敷きになっていた(右・2011年4月29日)

この木箱エの内容物を確認すると、上方には2列に並べられた近世の横帳が収められており、下方には同様の横帳が一部横向きに入れられていた。また震災後の壁土などに加えて、おそらく震災前に鼠などに食いちぎられたか紙吹雪のようになった細かい紙片なども入っている状態であった。そのため、「もんじょ箱」にビニール袋を敷き、そこに取りあえず移し替えることにした。ただし、「もんじょ箱」は2箱を要した。



廣瀬家土蔵前室工(木箱)の移し替え前の状態。右は箱隅の紙片など



もんじょ箱へ移動後の古文書(2箱になった)。右は移し替え後の木箱。底板が失われている



棚2段分を空けることができた

■ 廣瀬博明家文書の目録採り

今回はごく一部の古文書のみであったが、目録採りの作業を行った。詳細は下記のとおりである。

土蔵2階 キ-b-②-141~165(途中)

土蔵2階 キ-b-④-18~112(終了)

前回の報告でキ-b-④-10まで作業をしたとなっていたのは、17までの誤りでした。訂正いたします。

■関口勉家文書の確認

今回こらっせに赴いたところ、地元の方が持ち込まれたという小型のダンボール1箱分の史料(柳在家地区の関口勉家旧蔵のもの)があったため、その内容を確認した。保存すべきかどうか判断を委ねられたが、近世末から近代の土地台帳など貴重なものと判明したので、こらっせでの保管をお願いした。



関口勉家文書は、取りあえず「こらっせ」2階古文書収蔵室の棚の最上段に置いた

■教育長および教委事務局による文化財保全活動の聞き取り

今年度から新たに村に着任された下育郎教育長より、震災以後の文化財保全活動等について詳細を知りたいとのご要望があり、11月4日の午後に下教育長および広瀬忠一教育委員会事務局長と会談の機会をもった。この中では、こらっせ誕生に至る経緯やこれまで行ってきた保全活動の内容と現状等について話をさせていただき、また今後の文化財行政のあり方などについても話が広がった。

3. 会計報告(大澤佳寿子・白水智)

[2022年9月1日～2022年12月10日までの支出]

<宿泊・厚生関係>

○宿泊費補助(1泊・1名分) 3,000円

<その他>

○『栄村誌』(新潟資料ネット寄贈分) 4,500円

※この書籍代は前回の会計報告で掲載すべき8月19日分の支出であったが、ミスで落ちていた分である。今回の報告に計上する。

○送料(新潟資料ネットへの書籍送料) 1,050円

計 8,550円

[2022年9月1日～2022年12月10日までの収入]

○寄付金(加藤良子様 9月29日) 9,000円

計 9,000円

[残 額] 1,261,185円

※本報告書中、とくに執筆者の記載がない部分や撮影者注記のない写真は、白水が担当・提供した。